



七夕 ~星に願いを~

七夕とは、おりひめ ひこぼし織姫さまと彦星さまが天の川を渡って、1年に1度だけ出会える7月7日の夜のこと。短冊に願い事を書いて、笹竹に飾り付けます。子供のころ、たくさんの短冊をつるして織姫と彦星にお願いごとをしたと思います。では七夕はいったいいつから、どのようにして始まったのでしょうか？

その起源には数多く説がありますが、もともと日本の神事であった「棚機」、織姫と彦星の伝説、奈良時代に中国から伝来した「乞巧奠」という行事があわざったものと言われています。

今回は、織姫と彦星の伝説を紹介したいと思います。国を超えて広く伝わる織姫と彦星のお話には、いろんなバリエーションがありますが、以下の内容はほぼ共通しています。(ちなみに、七夕は中国や韓国、ベトナムにもあります。)

てんてい天帝(神様)の娘である織女は、しあくじょ機織りが上手で働き者の女性。はたおき天帝は、同じく働き者で牛飼いの牽牛と引き合させました。二人はひと目で恋に落ち、結婚しました。

ところが結婚すると遊んでばかりで、働かなくなるという結果に怒った天帝は二人を天の川の両岸に引き離しましたが、織女が泣いて悲しんだため、年に1度、七夕の夜にだけ会うことを許すようになった…というあらすじです。

七夕飾りについてですが、色とりどりの短冊や、いろんな形の飾りを笹竹に吊すのですが、昔は高ければ高いほど星に願いが届くと考えられ、屋根の上まで高くかげていたようです。

1日も早く新型コロナウイルス感染症の感染が「収束」し、やがて「終息」に向かうことを願っています。

星に願いを!みなさんは今年どのようなお願いをしますか?



授業参観

緊急事態宣言の発令に伴い、実施できなかった授業参観を、西学舎では23日(水)、東学舎では29日(火)に分散形式で実施しました。今年度初めてということもあり、両学舎とも多くの保護者の方々にご来校いただきました。新学年になり3ヶ月が経過し、子どもたちはクラスにも慣れてきました。保護者の方々に見守られながら、落ち着いて学習に取り組む姿を見ていただけだと思います。保護者の皆様、ご参観いただきありがとうございました。

(次回は、9月4日に土曜参観を予定しています。)



9年生よ、熱くなれ!

9年生にとっては、最後の大会「夏季選手権大会」が始まります。緊急事態宣言発令による部活動停止、春季大会中止、活動時間・内容の制限など、この9年生は様々な場面で我慢をする場面が多かったと思います。そのような中で、目の前の困難にしっかりと向き合いながら、東山泉の最高学年として、立派に学校生活を送ってくれています。9年生のみなさん、仲間とともに過ごす時間を大切にし、試合に向けてしっかりと準備をし、大会に臨んでほしいと思います。最高のパフォーマンスを期待しています。9年生、頑張れ!!



児童生徒総会

児童生徒会活動を方向づける最高の議決機関で、みんなの意思を決定する会である児童生徒総会が、30日(水)に東学舎で開催されました。児童生徒は全体で集合することはできないので、体育館と教室をZOOMでつないでのリモート形式での総会となりました。代議員の中から選出された議長による進行のもと、児童生徒会本部・代議専門委員会の基本方針が提案されました。質疑応答ののち、議案が採決されました。より良い学校生活、より良い“東山泉”的スタートとなりました。



夏季大会について(後期課程 運動部活動)

大会の開催にあたっては、感染拡大防止策を一層徹底するため、全競技、全会場で無観客開催とされていますので、ご理解ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。大会の様子や結果はホームページや泉だより等で発信いたします。